

科目名	看護理論																																
科目責任者	木下幸代																																
単位数他	2 単位 (30 時間) 必修 春semester																																
科目の位置付	(1) 「生命の尊厳と隣人愛」の精神を基盤とする倫理観を身に付け、研究や実践に反映することができる。																																
科目概要	看護学および科学哲学の歴史的変遷を振り返り、現在の看護学の理論体系について理解を深めるとともに、看護理論を実践および研究に活用する基礎を養う。																																
到達目標	1. 看護学および科学哲学の歴史的変遷を理解する。 2. 看護学における主要な理論・概念を、看護現象との関連において理解する。 3. 看護理論あるいは概念モデルを看護実践および看護研究に活用する方法について検討する。																																
授業計画	<table border="0"> <thead> <tr> <th style="text-align: center;">＜授業内容・テーマ等＞</th><th style="text-align: center;">＜担当教員名＞</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第 1 回：看護理論とは ー理論ー研究ー実践ー</td><td>木下 幸代</td></tr> <tr> <td>第 2 回：看護学の歴史的変遷</td><td>木下 幸代</td></tr> <tr> <td>第 3 回：看護理論において用いられる用語</td><td>木下 幸代</td></tr> <tr> <td>第 4 回：看護理論・概念モデル・看護哲学</td><td>木下 幸代</td></tr> <tr> <td>第 5 回： ナイチンゲールの看護理論</td><td>小川 典子</td></tr> <tr> <td>第 6 回：社会改革者としてナイチンゲール</td><td>小川 典子</td></tr> <tr> <td>第 7 回： アメリカにおける初期の看護理論</td><td>小川 典子</td></tr> <tr> <td>第 8 回： ケア／ケアリングの概念</td><td>木下 幸代</td></tr> <tr> <td>第 9 回： 看護実践に関わる主要概念</td><td>木下 幸代</td></tr> <tr> <td>第 10 回：主な看護理論 1. 中範囲理論</td><td>木下 幸代</td></tr> <tr> <td>第 11 回：主な看護理論 2. Nora J. Pender, Margaret A. Newman</td><td>木下 幸代</td></tr> <tr> <td>第 12 回：主な看護理論 3. Dorothea E. Orem, Sister Callista Roy</td><td>木下 幸代</td></tr> <tr> <td>第 13 回：主な看護理論 4. Jean Watson, Madeleine M. Leininger</td><td>木下 幸代</td></tr> <tr> <td>第 14 回：主な看護理論 5. Patricia Benner etc.</td><td>木下 幸代</td></tr> <tr> <td>第 15 回：看護実践・看護研究における理論の活用</td><td>木下 幸代</td></tr> </tbody> </table>	＜授業内容・テーマ等＞	＜担当教員名＞	第 1 回：看護理論とは ー理論ー研究ー実践ー	木下 幸代	第 2 回：看護学の歴史的変遷	木下 幸代	第 3 回：看護理論において用いられる用語	木下 幸代	第 4 回：看護理論・概念モデル・看護哲学	木下 幸代	第 5 回： ナイチンゲールの看護理論	小川 典子	第 6 回：社会改革者としてナイチンゲール	小川 典子	第 7 回： アメリカにおける初期の看護理論	小川 典子	第 8 回： ケア／ケアリングの概念	木下 幸代	第 9 回： 看護実践に関わる主要概念	木下 幸代	第 10 回：主な看護理論 1. 中範囲理論	木下 幸代	第 11 回：主な看護理論 2. Nora J. Pender, Margaret A. Newman	木下 幸代	第 12 回：主な看護理論 3. Dorothea E. Orem, Sister Callista Roy	木下 幸代	第 13 回：主な看護理論 4. Jean Watson, Madeleine M. Leininger	木下 幸代	第 14 回：主な看護理論 5. Patricia Benner etc.	木下 幸代	第 15 回：看護実践・看護研究における理論の活用	木下 幸代
＜授業内容・テーマ等＞	＜担当教員名＞																																
第 1 回：看護理論とは ー理論ー研究ー実践ー	木下 幸代																																
第 2 回：看護学の歴史的変遷	木下 幸代																																
第 3 回：看護理論において用いられる用語	木下 幸代																																
第 4 回：看護理論・概念モデル・看護哲学	木下 幸代																																
第 5 回： ナイチンゲールの看護理論	小川 典子																																
第 6 回：社会改革者としてナイチンゲール	小川 典子																																
第 7 回： アメリカにおける初期の看護理論	小川 典子																																
第 8 回： ケア／ケアリングの概念	木下 幸代																																
第 9 回： 看護実践に関わる主要概念	木下 幸代																																
第 10 回：主な看護理論 1. 中範囲理論	木下 幸代																																
第 11 回：主な看護理論 2. Nora J. Pender, Margaret A. Newman	木下 幸代																																
第 12 回：主な看護理論 3. Dorothea E. Orem, Sister Callista Roy	木下 幸代																																
第 13 回：主な看護理論 4. Jean Watson, Madeleine M. Leininger	木下 幸代																																
第 14 回：主な看護理論 5. Patricia Benner etc.	木下 幸代																																
第 15 回：看護実践・看護研究における理論の活用	木下 幸代																																

学修方法	講義およびセミナー形式で授業を進める。
評価方法	プレゼンテーション（50%）、課題レポート（50%）を総合して行う。
課題に対するフィードバック	課題に対するフィードバックは、授業のなかでの討議を通して随時行う。 また、提出された課題レポートについては、振り返りの機会を設ける。
指定図書	とくに指定しない。
参考書	1. 筒井真優美編(2015). 看護理論家の業績と理論評価. 医学書院. 2. 筒井真優美編(2015). 看護理論—看護理論 20 の理解と実践への応用, 改訂第 2 版. 南江堂 3. Marriner-Tomey, A., Alligood, M. R., 都留伸子監訳 (2004). 看護理論家とその業績, 第 3 版. 医学書院. 4. 黒田裕子監修(2016). やさしく学ぶ看護理論, 改訂 4 版. 日総研出版. 5. 野川道子編(2016). 看護実践に活かす中範囲理論, 第 2 版. メヂカルフレンド社. 6. . 正木治恵, 酒井郁子編著(2012). 看護理論の活用—看護実践の問題解決のために. 医歯薬出版. 7. Fawcett, J. 太田・筒井監訳 (2008). フォーセット看護理論の分析と評価. 医学書院. (他の参考書・文献は、授業の中で適宜紹介する)
事前・事後学修	事前学修：最初に授業計画を提示するので、担当する課題を決めて事前学修を行い、資料作成およびプレゼンテーションの準備をしてください（各回 180 分程度）。 課題 1. 看護学に関わる主要な用語について調べ発表・討議する（第 3～4 回） 課題 2. ひとりの看護理論家を取り上げて、プレゼンテーションを行う（第 10 回～第 14 回） 事後学修：課題で取り上げた事柄や授業内容について、自身の経験とも照らし合わせて考察し、レポートをまとめる。
オフィスアワー	木下：5705 研究室 E-mail: sachiyo-k@seirei.ac.jp 時間・連絡方法等については初回授業時に提示します。

科目名	看護研究方法																																
科目責任者	木下 幸代																																
単位数他	2単位 (30 時間) 必修 春セメスター																																
科目の位置付	(4) 研究課題を自ら発見し、先行研究のレビューを行い、独創的な研究テーマを設定して、研究計画を立案することができる。																																
科目概要	看護学における研究の重要性および量的研究方法・質的研究方法の概要について理解し、看護の質の向上をめざして研究活動を行うための基本的な知識を修得する。																																
到達目標	1. 看護研究における文献検索の意義を理解し、具体的方法を学修する。 2. さまざまな疑問から研究課題を明確化していくプロセスについて学修する。 3. 量的研究についての一連のプロセス（概念枠組みの構築、研究デザイン・研究方法の選定、データの収集・分析）を理解する。 4. 量的なデータの収集方法および測定用具の選択について学修する。 5. 質的研究方法のプロセスを概観し、事例研究、質的記述的研究、その他さまざまな質的研究方法の理論的基盤と方法の概略について学ぶ。 6. 質的研究方法の実際について学修する。																																
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>＜授業内容・テーマ等＞</th><th>＜担当教員名＞</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第 1 回： 看護における研究の重要性</td><td>木下 幸代</td></tr> <tr> <td>第 2 回： 文献検索の意義と方法</td><td>木下 幸代</td></tr> <tr> <td>第 3 回： 文献の読み方・文献レビュー</td><td>木下 幸代</td></tr> <tr> <td>第 4 回： 研究課題と概念枠組み</td><td>木下 幸代</td></tr> <tr> <td>第 5 回： 量的研究デザイン</td><td>藤井 徹也</td></tr> <tr> <td>第 6 回： 量的データの収集・測定用具の選択</td><td>藤井 徹也</td></tr> <tr> <td>第 7 回： 量的データの分析</td><td>藤井 徹也</td></tr> <tr> <td>第 8 回： 量的研究論文を読む</td><td>藤井 徹也</td></tr> <tr> <td>第 9 回： 質的研究の種類とその方法の概略</td><td>木下 幸代</td></tr> <tr> <td>第 10 回： 質的データの収集方法</td><td>木下 幸代</td></tr> <tr> <td>第 11 回： 質的研究論文を読む</td><td>木下 幸代</td></tr> <tr> <td>第 12 回： 研究計画書の作成</td><td>木下 幸代</td></tr> <tr> <td>第 13 回： 質的研究の実際 1. インタビューの基礎</td><td>落合 亮太</td></tr> <tr> <td>第 14 回： 質的研究の実際 2. 方法論の理解</td><td>落合 亮太</td></tr> <tr> <td>第 15 回： 質的研究の実際 3. 分析の基礎</td><td>落合 亮太</td></tr> </tbody> </table>	＜授業内容・テーマ等＞	＜担当教員名＞	第 1 回： 看護における研究の重要性	木下 幸代	第 2 回： 文献検索の意義と方法	木下 幸代	第 3 回： 文献の読み方・文献レビュー	木下 幸代	第 4 回： 研究課題と概念枠組み	木下 幸代	第 5 回： 量的研究デザイン	藤井 徹也	第 6 回： 量的データの収集・測定用具の選択	藤井 徹也	第 7 回： 量的データの分析	藤井 徹也	第 8 回： 量的研究論文を読む	藤井 徹也	第 9 回： 質的研究の種類とその方法の概略	木下 幸代	第 10 回： 質的データの収集方法	木下 幸代	第 11 回： 質的研究論文を読む	木下 幸代	第 12 回： 研究計画書の作成	木下 幸代	第 13 回： 質的研究の実際 1. インタビューの基礎	落合 亮太	第 14 回： 質的研究の実際 2. 方法論の理解	落合 亮太	第 15 回： 質的研究の実際 3. 分析の基礎	落合 亮太
＜授業内容・テーマ等＞	＜担当教員名＞																																
第 1 回： 看護における研究の重要性	木下 幸代																																
第 2 回： 文献検索の意義と方法	木下 幸代																																
第 3 回： 文献の読み方・文献レビュー	木下 幸代																																
第 4 回： 研究課題と概念枠組み	木下 幸代																																
第 5 回： 量的研究デザイン	藤井 徹也																																
第 6 回： 量的データの収集・測定用具の選択	藤井 徹也																																
第 7 回： 量的データの分析	藤井 徹也																																
第 8 回： 量的研究論文を読む	藤井 徹也																																
第 9 回： 質的研究の種類とその方法の概略	木下 幸代																																
第 10 回： 質的データの収集方法	木下 幸代																																
第 11 回： 質的研究論文を読む	木下 幸代																																
第 12 回： 研究計画書の作成	木下 幸代																																
第 13 回： 質的研究の実際 1. インタビューの基礎	落合 亮太																																
第 14 回： 質的研究の実際 2. 方法論の理解	落合 亮太																																
第 15 回： 質的研究の実際 3. 分析の基礎	落合 亮太																																

学修方法	講義およびセミナー形式で授業を進める。
評価方法	プレゼンテーションおよび討議への参加度（50%）、課題レポート（50%）を総合して行う。
課題に対するフィードバック	課題については、授業の中で討議する機会を設け、随時フィードバックを行う。
指定図書	南 裕子，野嶋佐由美編(2017)．看護における研究，第2版．日本看護協会出版会．
参考書	1. Burns, N. & Grove, S. K., 黒田裕子他訳(2015)．バーンズ&グローブ看護研究入門 原著第7版 評価・統合・エビデンスの生成．エルゼビア・ジャパン． 2. Polit, D. F. & Beck, C. T., 近藤潤子監訳(2010)．看護研究－原理と方法，第2版．医学書院． 3. グレグ美鈴，麻原きよみ，横山美江編著(2016)．よくわかる質的研究の進め方・まとめ方，第2版．医歯薬出版． 4. 坂下玲子他(2016)．系統看護学講座 別巻 看護研究．医学書院． (他の参考書・文献は、授業の中で適宜紹介する)
事前・事後学修	適宜、課題（文献検討、概念枠組みの構築、データの収集・分析等）を提示するので、自分の研究課題と関連付けながら準備してください（各回 180 分程度）。 課題レポート：自分の関心領域の研究論文を取り上げてクリティークを行う。
オフィスアワー	木下幸代（5705 研究室） E-mail: sachiyo-k@seirei.ac.jp 時間・連絡方法等については初回授業時に提示します。

科目名	看護倫理	
科目責任者	森 一恵	
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 秋	
科目の位置付	「生命の尊厳と隣人愛」の精神を基盤とする倫理観を身に付け、研究・実践及び自らの行動に反映することができる	
科目概要	看護倫理の概念を明らかにするとともに、倫理的判断のよりどころとなる倫理上の基本原則ならびに看護者の倫理綱領、患者の権利などについて理解を深める。また看護実践および漢語研究の倫理的課題・葛藤を探究するとともに、倫理的問題解決技法等を身につけることを通して看護における倫理的判断能力および関係者間での倫理的調整能力を養う。	
到達目標	1. 看護倫理の概念を具体的に理解することができる。 2. 看護の倫理原則、看護者の倫理綱領、患者の権利を理解し、これらに含まれる基本的概念を具体化できる。 3. 看護実践および看護研究における倫理的問題・葛藤について問題解決技法等を活用して倫理的判断、倫理的調整を導くことができる。	
授業計画	回	授業内容・テーマ等
	1	生命倫理の基本的考え方、倫理的問題・葛藤と責務
	2	倫理的判断のよりどころ（倫理上の基本原則、倫理綱領他）
	3	倫理的意思決定のプロセスと倫理的調整の検討（事例①）
	4	倫理的意思決定のプロセスと倫理的調整の検討（事例②）
	5	生命の始期にまつわる倫理的課題の検討
	6	人を対象とする研究における倫理（1）
	7	人を対象とする研究における倫理（2）
	8	遺伝子治療／移植医療等高度先進医療に伴う倫理的課題 （1）脳死・臓器移植
	9	遺伝子治療／移植医療等高度先進医療に伴う倫理的課題 （2）出生前診断
	10	倫理的問題に関わる基本的な概念と事例の検討 （1）インフォームド・コンセント
	11	（2）アドボカシー
	12	（3）Quality of life
	13	（4）プライバシー
	14	生命の終期にまつわる倫理的課題の検討
	15	代理意思決定に関する倫理的課題の検討

学修方法	講義、演習およびテーマにそった学生のプレゼンテーションを元に討議形式ですすめます。日々の実践で遭遇する倫理上の問題を取り上げ、倫理の基礎知識をもとにした倫理的判断の方法を学修します。感性を研ぎ澄まして日頃の実践をふりかえり、クラスで討議する事例を持って参加し、講義後は学修内容をふり返る。
評価方法	1. 授業資料の準備とプレゼンテーション（発表）、討議への参加状況：60% 2. 提出物、課題レポート：40%
課題に対するフィードバック	1. 授業資料の準備は予め担当教員に相談し、課題のフィードバックをプレゼンテーション前に行う。 2. 討議の内容についてはクラス中に課題が明確になるようファシリテートする。
指定図書	1. 日本看護協会出版会編「看護者の基本的責務」2013、日本看護協会出版会 2. サラ・T・フライ他、片田範子他訳「看護実践の倫理 第3版」2010、日本看護協会出版会
参考書	1. Jonsen・A・R 他、赤林朗他訳「臨床倫理学」2006、新興医学出版社 2. トンプソン J・E 他、ケイコ・イマイ・キン他監訳「看護倫理のための意思決定 10 のステップ」2004、日本看護協会出版会
事前・事後学修	これまでの倫理に関わる学修を振り返り、各課題において自分なりの「倫理」「倫理観」「倫理上の問題」に関する考えや、クラスで討議する事例を持ってクラスに臨んでください。また、日々の実践で遭遇する倫理上の問題を取り上げ、倫理の基礎知識をもとにした倫理的判断の方法についてクラス後に反復して考える。感性を研ぎ澄まして日頃の実践を振り返る。（事前・事後学修約 40 分）
オフィスアワー	森 一恵：看護学研究科 1217 研究室、E-mail：kazue-m@seirei.ac.jp オフィス・アワー：毎週水曜日 12:00～13:00（ただし、実習等で不在のことがあるため、事前にメールで予定を確認してください）

科目名	看護管理論
科目責任者	鶴田 恵子
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 春
科目の位置付	(1) 「生命の尊厳と隣人愛」の精神を基盤とする倫理観を身に付け、研究・実践及び自らの行動に反映することができる。
科目概要	看護管理学の諸理論及び看護管理過程について学修し、看護管理のありかたを探究する。 看護管理学の視点から CNS 活用の在り方を探究する。
到達目標	課題を解決するために、既存のシステムのみならず新たなシステムを構築し、マネジメントできる方策について説明することができる
授業計画	<授業内容・テーマ等> 第 1 回：ガイダンス、第 1 章：看護サービス管理とは何か 第 2 回：第 3 章：看護サービス管理の要素とプロセス 第 3 回：第 4 章：日本の医療と看護サービス提供システム-医療経済のしくみ 第 4 回：第 4 章：-在宅看護におけるマネジメント、看護サービス提供システムの現状と課題、介護保険と看護サービスの展望 第 5 回：第 6 章：看護サービスの質保証 第 6 回：第 8 章：看護と情報管理システム 第 7 回：第 9 章：看護キャリア開発 第 8 回：第 9 章：一現任教育におけるキャリア開発 第 9 回：第 10 章：看護倫理と看護サービス管理 第 10 回：第 11 章：看護サービスにおける研究と教育－看護サービスにおける研究と教育 第 11 回：第 11 章：一看護サービス管理の基礎教育、一看護管理者の育成と大学院教育 第 12 回：米国の看護管理の論点(1) 第 13 回：米国の看護管理の論点(2) 第 14 回：米国の看護管理の論点(3) 第 15 回：米国の看護管理の論点(4)

学修方法	授業は、講義、プレゼンテーション、テーマを中心にディスカッションを重視するために、資料を事前に提示する。
評価方法	授業への積極的な取り組み(発言)30%、プレゼンテーションの内容と態度30%、課題レポート40%
課題に対するフィードバック	課題レポートにコメントを記載し返却する。
指定図書	「看護サービス管理」第4版 中西睦子、小池智子、松浦正子編集 医学書院
参考書	看護管理学習テキスト(全8巻+別巻)、日本看護協会出版会 Eleanor J. Sullivan. (2013). Effective Leadership and Management in Nursing
事前・事後学修	授業の前に、事前に資料を読み、質問を用意する。
オフィスアワー	鶴田恵子：看護学研究科 1617 研究室、E-mail : keiko-t@seirei.ac.jp 事前連絡(メール)により、学生の都合に合わせます

科目名	看護政策論																																
科目責任者	川村 佐和子																																
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 春																																
科目の位置付	(1)「生命の尊厳と隣人愛」の精神を基盤とする倫理観を身に付け、研究・実践及び自らの行動に反映することができる。																																
科目概要	政策策定およびその施行の過程や、政策に働きかける方策について、看護及び保健医療福祉行政の実際を踏まえて理解し、看護の質を向上させるための看護政策の在り方や制度等を改善していく方策について修得する。あわせて、近年の看護政策の課題や動向について修得する。																																
到達目標	1. 看護政策の策定・施行過程を理解する。 2. 近年の保健医療福祉政策の実際と今後の方向性及び課題について理解する。 3. 看護の質を向上させるための政策(法制度など)に働きかける知識や方策を修得する																																
授業計画	<table border="0"> <thead> <tr> <th style="text-align: center;">＜授業内容・テーマ等＞</th><th style="text-align: center;">＜担当教員名＞</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第 1 回：看護政策および政策立案過程</td><td>川村佐和子</td></tr> <tr> <td>第 2 回：看護保健医療政策の事例に基づく看護政策過程の諸型</td><td>川村佐和子</td></tr> <tr> <td>第 3 回：わが国における医療政策及び看護政策の変遷</td><td>習田由美子</td></tr> <tr> <td>第 4 回：高齢社会における看護の重要性と在り方</td><td>習田由美子</td></tr> <tr> <td>第 5 回：当面する看護課題と看護政策からのアプローチ</td><td>習田由美子</td></tr> <tr> <td>第 6 回：看護政策における看護職能団体の使命</td><td>勝又浜子</td></tr> <tr> <td>第 7 回：看護政策における看護職の活動</td><td>勝又浜子</td></tr> <tr> <td>第 8 回：専門職脳団体からみた今後の看護保健福祉政策の課題</td><td>勝又浜子</td></tr> <tr> <td>第 9 回：国及び地方行政における保健福祉政策の実際</td><td>平野かよ子</td></tr> <tr> <td>第 10 回：保健福祉政策における保健師の役割と政策評価</td><td>平野かよ子</td></tr> <tr> <td>第 11 回：保健福祉政策の今後の課題</td><td>平野かよ子</td></tr> <tr> <td>第 12 回：近年の医療政策ならびに看護政策に伴う 医療保健福祉施設の取り組みと課題</td><td>吉村浩美</td></tr> <tr> <td>第 13 回：在宅看護の推進に関する政策と課題</td><td>特別講師 上野桂子</td></tr> <tr> <td>第 14 回：聖隷事業団における看護職の活動</td><td>特別講師 上野桂子</td></tr> <tr> <td>第 15 回：修士課程修了者として、看護政策にどのように取り組むか (まとめの討論)</td><td>川村佐和子</td></tr> </tbody> </table>	＜授業内容・テーマ等＞	＜担当教員名＞	第 1 回：看護政策および政策立案過程	川村佐和子	第 2 回：看護保健医療政策の事例に基づく看護政策過程の諸型	川村佐和子	第 3 回：わが国における医療政策及び看護政策の変遷	習田由美子	第 4 回：高齢社会における看護の重要性と在り方	習田由美子	第 5 回：当面する看護課題と看護政策からのアプローチ	習田由美子	第 6 回：看護政策における看護職能団体の使命	勝又浜子	第 7 回：看護政策における看護職の活動	勝又浜子	第 8 回：専門職脳団体からみた今後の看護保健福祉政策の課題	勝又浜子	第 9 回：国及び地方行政における保健福祉政策の実際	平野かよ子	第 10 回：保健福祉政策における保健師の役割と政策評価	平野かよ子	第 11 回：保健福祉政策の今後の課題	平野かよ子	第 12 回：近年の医療政策ならびに看護政策に伴う 医療保健福祉施設の取り組みと課題	吉村浩美	第 13 回：在宅看護の推進に関する政策と課題	特別講師 上野桂子	第 14 回：聖隷事業団における看護職の活動	特別講師 上野桂子	第 15 回：修士課程修了者として、看護政策にどのように取り組むか (まとめの討論)	川村佐和子
＜授業内容・テーマ等＞	＜担当教員名＞																																
第 1 回：看護政策および政策立案過程	川村佐和子																																
第 2 回：看護保健医療政策の事例に基づく看護政策過程の諸型	川村佐和子																																
第 3 回：わが国における医療政策及び看護政策の変遷	習田由美子																																
第 4 回：高齢社会における看護の重要性と在り方	習田由美子																																
第 5 回：当面する看護課題と看護政策からのアプローチ	習田由美子																																
第 6 回：看護政策における看護職能団体の使命	勝又浜子																																
第 7 回：看護政策における看護職の活動	勝又浜子																																
第 8 回：専門職脳団体からみた今後の看護保健福祉政策の課題	勝又浜子																																
第 9 回：国及び地方行政における保健福祉政策の実際	平野かよ子																																
第 10 回：保健福祉政策における保健師の役割と政策評価	平野かよ子																																
第 11 回：保健福祉政策の今後の課題	平野かよ子																																
第 12 回：近年の医療政策ならびに看護政策に伴う 医療保健福祉施設の取り組みと課題	吉村浩美																																
第 13 回：在宅看護の推進に関する政策と課題	特別講師 上野桂子																																
第 14 回：聖隷事業団における看護職の活動	特別講師 上野桂子																																
第 15 回：修士課程修了者として、看護政策にどのように取り組むか (まとめの討論)	川村佐和子																																

学修方法	講義、プレゼンテーション、ディスカッション ※講義の順番は、講師の都合などで変わることがあります。
評価方法	討論への参加状況（40％）、レポート（60％）
課題に対するフィードバック	課題レポートにコメントを記載して返却する。
指定図書	『看護六法 平成30年版』（新日本法規）
参考書	『新たな看護のあり方に関する検討会』（日本看護協会出版会）、『事例から学ぶ保健活動の評価』平野かよ子・尾崎米厚編、医学書院2002、その他、授業中に紹介する。
事前・事後学修	事前学習：保健師助産師看護師法、医療法を通読し、これら法律に関係する近年の制度改正や通知文を見つけ読み、看護政策について思考を深めておくこと。事後学習：各授業において学習した内容を自身の考えと重ねて熟考し、自身の考えを確かなものにする。
オフィスアワー	川村 佐和子 5605 研究室 sawako-k@seirei.ac.jp 事前連絡（メール）により、学生の都合に合わせてよう調整します。※講義の順番は、講師の都合などで変わることがあります。

科目名	看護コンサルテーション論																																
科目責任者	入江拓																																
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 秋																																
科目の位置付	(2) 高度な専門知識・能力を習得し、探求心と論理的思考力を身に付け、問題解決を図ることができる。																																
科目概要	コンサルテーションの概念・実践モデル・プロセスを明らかにし、毎回の講義および、ディスカッションを通して、提供される事例をもとに実践における課題や困難を具体的に知り、問題を解決するための知識や、状況に対する俯瞰力を養いながら、看護コンサルテーションを展開するための能力を習得する。																																
到達目標	1. コンサルテーションの概念、分類、実践モデル、プロセスを理解する。 2. 専門看護師の実践経験を通じて、コンサルテーションの意義、コンサルティの役割と求められる技能、個人及び組織を対象とする実践とその評価方法について理解する。 3. コンサルテーションの事例分析を通じて、看護実践における課題や困難、問題を解決するためのコンサルテーションの具体的な展開方法について探求する。																																
授業計画	<table border="0"> <thead> <tr> <th><授業内容・テーマ等></th><th><担当教員名></th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第1回：コンサルテーションの概念とコンサルタントの役割 医療現場の志向性に関する比較文化的考察</td><td>入江 拓、井上菜穂美</td></tr> <tr> <td>第2回：専門看護師の役割と機能 課題図書に関するプレゼンテーション・討議</td><td>井上菜穂美、入江 拓</td></tr> <tr> <td>第3回：看護実践におけるコンサルテーションの現状と課題 課題図書に関するプレゼンテーション・討議</td><td>井上菜穂美、入江 拓</td></tr> <tr> <td>第4回：コンサルテーションに用いる理論と技術 構造モデル・タイプ・役割</td><td>吉田智美</td></tr> <tr> <td>第5回：コンサルテーションのプロセス コンサルテーションの過程と段階</td><td>吉田智美</td></tr> <tr> <td>第6回：コンサルテーションの実践モデル 事例を通じたコンサルテーションモデルの選択の判断</td><td>大木純子</td></tr> <tr> <td>第7回：患者中心のコンサルテーションの実際① 小児看護に関する事例検討と討議</td><td>鈴木さと美</td></tr> <tr> <td>第8回：患者中心のコンサルテーションの実際② 急性・重症患者看護に関する事例検討と討議</td><td>桑原美香</td></tr> <tr> <td>第9回：コンサルティ中心のコンサルテーションの実際 事例を通じたコンサルティの専門機能の向上</td><td>大木純子</td></tr> <tr> <td>第10回：コンサルテーションにおける教育的役割 事例を通じたコンサルタントの教育的役割の実際と要点</td><td>大木純子</td></tr> <tr> <td>第11回：組織におけるコンサルテーション 事例を通じた組織への介入の実際と要点</td><td>佐久間由美</td></tr> <tr> <td>第12回：組織を対象とするコンサルテーションの実際 事例を通じた組織への介入のプロセスの実際と要点</td><td>佐久間由美</td></tr> <tr> <td>第13回：看護管理者と専門看護師の連携 事例を通じた看護管理者と専門看護師の連携のプロセスの実際と要点</td><td>佐久間由美</td></tr> <tr> <td>第14回：コンサルテーションの事例分析と展開方法 プレゼンテーション・討議</td><td>井上菜穂美、佐久間由美</td></tr> <tr> <td>第15回：コンサルテーションの事例分析と展開方法 プレゼンテーション・討議・まとめ</td><td>井上菜穂美、佐久間由美</td></tr> </tbody> </table>	<授業内容・テーマ等>	<担当教員名>	第1回：コンサルテーションの概念とコンサルタントの役割 医療現場の志向性に関する比較文化的考察	入江 拓、井上菜穂美	第2回：専門看護師の役割と機能 課題図書に関するプレゼンテーション・討議	井上菜穂美、入江 拓	第3回：看護実践におけるコンサルテーションの現状と課題 課題図書に関するプレゼンテーション・討議	井上菜穂美、入江 拓	第4回：コンサルテーションに用いる理論と技術 構造モデル・タイプ・役割	吉田智美	第5回：コンサルテーションのプロセス コンサルテーションの過程と段階	吉田智美	第6回：コンサルテーションの実践モデル 事例を通じたコンサルテーションモデルの選択の判断	大木純子	第7回：患者中心のコンサルテーションの実際① 小児看護に関する事例検討と討議	鈴木さと美	第8回：患者中心のコンサルテーションの実際② 急性・重症患者看護に関する事例検討と討議	桑原美香	第9回：コンサルティ中心のコンサルテーションの実際 事例を通じたコンサルティの専門機能の向上	大木純子	第10回：コンサルテーションにおける教育的役割 事例を通じたコンサルタントの教育的役割の実際と要点	大木純子	第11回：組織におけるコンサルテーション 事例を通じた組織への介入の実際と要点	佐久間由美	第12回：組織を対象とするコンサルテーションの実際 事例を通じた組織への介入のプロセスの実際と要点	佐久間由美	第13回：看護管理者と専門看護師の連携 事例を通じた看護管理者と専門看護師の連携のプロセスの実際と要点	佐久間由美	第14回：コンサルテーションの事例分析と展開方法 プレゼンテーション・討議	井上菜穂美、佐久間由美	第15回：コンサルテーションの事例分析と展開方法 プレゼンテーション・討議・まとめ	井上菜穂美、佐久間由美
<授業内容・テーマ等>	<担当教員名>																																
第1回：コンサルテーションの概念とコンサルタントの役割 医療現場の志向性に関する比較文化的考察	入江 拓、井上菜穂美																																
第2回：専門看護師の役割と機能 課題図書に関するプレゼンテーション・討議	井上菜穂美、入江 拓																																
第3回：看護実践におけるコンサルテーションの現状と課題 課題図書に関するプレゼンテーション・討議	井上菜穂美、入江 拓																																
第4回：コンサルテーションに用いる理論と技術 構造モデル・タイプ・役割	吉田智美																																
第5回：コンサルテーションのプロセス コンサルテーションの過程と段階	吉田智美																																
第6回：コンサルテーションの実践モデル 事例を通じたコンサルテーションモデルの選択の判断	大木純子																																
第7回：患者中心のコンサルテーションの実際① 小児看護に関する事例検討と討議	鈴木さと美																																
第8回：患者中心のコンサルテーションの実際② 急性・重症患者看護に関する事例検討と討議	桑原美香																																
第9回：コンサルティ中心のコンサルテーションの実際 事例を通じたコンサルティの専門機能の向上	大木純子																																
第10回：コンサルテーションにおける教育的役割 事例を通じたコンサルタントの教育的役割の実際と要点	大木純子																																
第11回：組織におけるコンサルテーション 事例を通じた組織への介入の実際と要点	佐久間由美																																
第12回：組織を対象とするコンサルテーションの実際 事例を通じた組織への介入のプロセスの実際と要点	佐久間由美																																
第13回：看護管理者と専門看護師の連携 事例を通じた看護管理者と専門看護師の連携のプロセスの実際と要点	佐久間由美																																
第14回：コンサルテーションの事例分析と展開方法 プレゼンテーション・討議	井上菜穂美、佐久間由美																																
第15回：コンサルテーションの事例分析と展開方法 プレゼンテーション・討議・まとめ	井上菜穂美、佐久間由美																																

学修方法	「講義」「講義をうけての討論による論点整理」「論点をレポートにより深める」「プレゼンテーション」
評価方法	ディスカッションへの参加度及び、プレゼンテーション（60%）、課題レポート（40%）
課題に対するフィードバック	出されたレポートに対して毎回コメントを返却します。院生、教員、講師でそれらを共有することで、次回の講義に活かすべく学びを深めます。
指定図書	・E. H. シャイン著，稲葉元吉・尾川丈一訳：プロセス・コンサルテーション 援助関係を築くこと，白桃書房，2002
参考書	・川野雅資：コンサルテーションを学ぶ，クオリティケア，2013 ・岩田健太郎：コンサルテーション・スキル、-他科医師支援とチーム医療-，南江堂，2013 ・E. H. シャイン著，金井壽宏監訳：謙虚なコンサルティング，英治出版，2017
事前・事後学修	授業前に関連資料（事例等）を配布、また指定図書の該当箇所を提示する。各自文献を入手し、該当箇所を読んで授業に参加する。毎回 60 分程度の事前・事後学習（適宜レポートの作成）を習慣づけてください。
オフィスアワー	入江と井上は看護学研究科の所属で、連絡先はそれぞれ（3403 研究室；taku-i@seirei.ac.jp）、（1208 研究室；nahomi-i@seirei.ac.jp）です。授業内容に関する質問や面談を希望する場合は、メールにてアポイントを取るか、講義後に声をかけてください。時間調整をして応じます。

科目名	フィジカルアセスメント Physical Assessment																		
科目責任者	森 一恵																		
単位数他	2 単位 (30 時間) 修士論文コース 選択 ・ 高度実践看護コース 必修 春																		
科目の位置付	2. 高度な専門知識・能力を習得し、探求心と論理的思考力を身に付け、問題解決を図ることができる。																		
科目概要	看護学の視点から複雑な健康問題をもつ対象の身体状況を系統的に診査し、臨床判断を行うために必要な知識と包括的なフィジカルアセスメント技術を修得する。																		
到達目標	1. フィジカルアセスメントに必要な知識に基づいた技術を学修し、患者の身体状況の診査技術を身につける。 2. 複雑な健康問題をもつ患者のフィジカルアセスメントに基づき、看護学の視点から、患者の健康状態の臨床判断について検討する。																		
授業計画	<table border="0"> <thead> <tr> <th><授業内容・テーマ等></th><th><担当教員名></th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第1回：フィジカルアセスメントの目的と 面接技法・基本技術と演習</td><td>森 一恵</td></tr> <tr> <td>第2-3回：循環器系アセスメント 機能・診察方法、心電図等検査データの読み方</td><td>若林 康</td></tr> <tr> <td>第4-5回：呼吸器系アセスメント 機能・診察方法、XP 等検査データの読み方</td><td>横村 光司</td></tr> <tr> <td>第6-7回：腎・泌尿器系アセスメント 機能・診察方法、XP 等検査データの読み方</td><td>三崎 太郎</td></tr> <tr> <td>第8-9回：消化器系アセスメント 機能・診察方法、内視鏡等検査データの読み方</td><td>藤田 博文</td></tr> <tr> <td>第10-11回：脳神経系アセスメント 機能・診察方法、反射等検査データの読み方</td><td>佐藤 晴彦</td></tr> <tr> <td>第12-13回：筋骨格系アセスメント 機能・診察方法、徒手筋力テスト等検査データの読み方</td><td>吉田 正弘</td></tr> <tr> <td>第14-15回：事例を用いたフィジカルアセスメントの実際</td><td>森 一恵</td></tr> </tbody> </table>	<授業内容・テーマ等>	<担当教員名>	第1回：フィジカルアセスメントの目的と 面接技法・基本技術と演習	森 一恵	第2-3回：循環器系アセスメント 機能・診察方法、心電図等検査データの読み方	若林 康	第4-5回：呼吸器系アセスメント 機能・診察方法、XP 等検査データの読み方	横村 光司	第6-7回：腎・泌尿器系アセスメント 機能・診察方法、XP 等検査データの読み方	三崎 太郎	第8-9回：消化器系アセスメント 機能・診察方法、内視鏡等検査データの読み方	藤田 博文	第10-11回：脳神経系アセスメント 機能・診察方法、反射等検査データの読み方	佐藤 晴彦	第12-13回：筋骨格系アセスメント 機能・診察方法、徒手筋力テスト等検査データの読み方	吉田 正弘	第14-15回：事例を用いたフィジカルアセスメントの実際	森 一恵
<授業内容・テーマ等>	<担当教員名>																		
第1回：フィジカルアセスメントの目的と 面接技法・基本技術と演習	森 一恵																		
第2-3回：循環器系アセスメント 機能・診察方法、心電図等検査データの読み方	若林 康																		
第4-5回：呼吸器系アセスメント 機能・診察方法、XP 等検査データの読み方	横村 光司																		
第6-7回：腎・泌尿器系アセスメント 機能・診察方法、XP 等検査データの読み方	三崎 太郎																		
第8-9回：消化器系アセスメント 機能・診察方法、内視鏡等検査データの読み方	藤田 博文																		
第10-11回：脳神経系アセスメント 機能・診察方法、反射等検査データの読み方	佐藤 晴彦																		
第12-13回：筋骨格系アセスメント 機能・診察方法、徒手筋力テスト等検査データの読み方	吉田 正弘																		
第14-15回：事例を用いたフィジカルアセスメントの実際	森 一恵																		

学修方法	講義、演習、セミナー形式で授業を進める。
評価方法	演習・ディスカッションへの参加度及びプレゼンテーション（60%）、課題レポート（40%）
課題に対するフィードバック	各担当教員とクラスの中で課題を明らかにした上で、次回以降のクラスで疑問点や調べた内容についてフィードバックを受ける。
指定図書	『実践！フィジカル・アセスメントー看護者としての基礎技術 改訂第3版』高橋照子，芳賀佐和子，佐藤富美子編（2008），金原出版 『フィジカルアセスメントガイドブックー目と手と耳でここまでわかる 第2版』山内豊明著（2011），医学書院
参考書	その他、授業中に随時連絡
事前・事後学修	・事前に各自文献を入手し、該当箇所を読んで授業に参加する。 ・事前に担当部分のプレゼンテーション準備を行う。 ・演習室のシミュレーターを用いて、各自で復習する。
オフィスアワー	臨地看護学実習などの予定により変更の可能性があるため、事前にメールで予定の確認を取ってください。森：1217 研究室、水曜日 12:00～13:00 kazue-m@seirei.ac.jp

科目名	病態生理学																																																	
科目責任者	豊島 由樹子																																																	
単位数他	2 単位 (30 時間) 修士論文コース 選択 ・ 高度実践看護コース 必修 春																																																	
科目の位置付	(2) 高度な専門知識・能力を習得し、探求心と論理的思考力を身に付け、問題解決を図ることができる。																																																	
科目概要	看護の高度実践における問題解決に向けて必要なアセスメントを行うための、医学的根拠となる病態学的変化やその機序について学修する。																																																	
到達目標	1. がん、急性疾患、慢性疾患、老年期、小児など看護の対象者におこる病態学的変化についての重要な病変とその機序について理解する。 2. 臨床上重要な共通の特徴的な病理学的変化についてアセスメントの要点が理解でき、説明できる。 3. 病態学的根拠に基づいて高度な臨床判断および看護介入方法を考案する基礎を身につける。																																																	
授業計画	<table border="0"> <thead> <tr> <th></th><th>＜授業内容・テーマ等＞</th><th>＜担当教員名＞</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第1回</td><td>臨床病態学における最近の動向</td><td>小川 博</td></tr> <tr> <td>第2回</td><td>細胞の病態学的変化とアポトーシス</td><td>小川 博</td></tr> <tr> <td>第3回</td><td>免疫とその機序</td><td>奈良 健司</td></tr> <tr> <td>第4回</td><td>感染症とその機序</td><td>奈良 健司</td></tr> <tr> <td>第5回</td><td>炎症とその機序</td><td>坂西 康志</td></tr> <tr> <td>第6回</td><td>腫瘍とその機序</td><td>坂西 康志</td></tr> <tr> <td>第7回</td><td>小児の成長発達にともなう病理的現象</td><td>木部 哲也</td></tr> <tr> <td>第8回</td><td>高齢者における老化現象と終末期の医療的概観</td><td>日置 弥之</td></tr> <tr> <td>第9回</td><td>高齢者の精神疾患に特有の病態</td><td>磯貝 聡</td></tr> <tr> <td>第10回</td><td>慢性疾患に特有の病態</td><td>坂西 康志</td></tr> <tr> <td>第11回</td><td>循環器系疾患に特有の病態</td><td>若林 康</td></tr> <tr> <td>第12回</td><td>腎・泌尿器系疾患に特有の病態</td><td>松島 秀樹</td></tr> <tr> <td>第13回</td><td>神経・運動疾患に特有の病態</td><td>内山 剛</td></tr> <tr> <td>第14回</td><td>糖尿病に特有の病態</td><td>山本真矢・豊島由樹子</td></tr> <tr> <td>第15回</td><td>病態アセスメントにもとづく看護介入</td><td>豊島由樹子・山本真矢</td></tr> </tbody> </table>			＜授業内容・テーマ等＞	＜担当教員名＞	第1回	臨床病態学における最近の動向	小川 博	第2回	細胞の病態学的変化とアポトーシス	小川 博	第3回	免疫とその機序	奈良 健司	第4回	感染症とその機序	奈良 健司	第5回	炎症とその機序	坂西 康志	第6回	腫瘍とその機序	坂西 康志	第7回	小児の成長発達にともなう病理的現象	木部 哲也	第8回	高齢者における老化現象と終末期の医療的概観	日置 弥之	第9回	高齢者の精神疾患に特有の病態	磯貝 聡	第10回	慢性疾患に特有の病態	坂西 康志	第11回	循環器系疾患に特有の病態	若林 康	第12回	腎・泌尿器系疾患に特有の病態	松島 秀樹	第13回	神経・運動疾患に特有の病態	内山 剛	第14回	糖尿病に特有の病態	山本真矢・豊島由樹子	第15回	病態アセスメントにもとづく看護介入	豊島由樹子・山本真矢
	＜授業内容・テーマ等＞	＜担当教員名＞																																																
第1回	臨床病態学における最近の動向	小川 博																																																
第2回	細胞の病態学的変化とアポトーシス	小川 博																																																
第3回	免疫とその機序	奈良 健司																																																
第4回	感染症とその機序	奈良 健司																																																
第5回	炎症とその機序	坂西 康志																																																
第6回	腫瘍とその機序	坂西 康志																																																
第7回	小児の成長発達にともなう病理的現象	木部 哲也																																																
第8回	高齢者における老化現象と終末期の医療的概観	日置 弥之																																																
第9回	高齢者の精神疾患に特有の病態	磯貝 聡																																																
第10回	慢性疾患に特有の病態	坂西 康志																																																
第11回	循環器系疾患に特有の病態	若林 康																																																
第12回	腎・泌尿器系疾患に特有の病態	松島 秀樹																																																
第13回	神経・運動疾患に特有の病態	内山 剛																																																
第14回	糖尿病に特有の病態	山本真矢・豊島由樹子																																																
第15回	病態アセスメントにもとづく看護介入	豊島由樹子・山本真矢																																																

学修方法	講義およびセミナー方式で授業を進める。
評価方法	毎回の授業過程における提出物および最終課題レポート(50%)、 プレゼンテーションおよびディスカッションへの参加度 (50%)
課題に対するフィードバック	課題や事前学修の内容については、授業のなかで随時フィードバックします。また、提出物および課題レポートについては振り返りの機会を設けます。
指定図書	とくに指定しない。
参考書	「カラー図解 症状の基礎からわかる病態生理 第2版」松尾理 監訳(2013), メディカル・サイエンス・インターナショナル. 「病態生理学」田中越郎 著 (2016), 医学書院. 「ケアに役立つ!ナースのためのカンタン免疫学」江本正志 他著 (2016), 学研 [免疫] 「感染症まるごとこの1冊」矢野晴美 著 (2015), 南山堂 [感染] 「病気が見える Vol.7 脳・神経」医療情報科学研究所 編 (2011), メディカル・サイエンス・インターナショナル [神経・精神] 「死亡直前と看取りのエビデンス」森田達也 他著 (2015), 医学書院 [高齢者] 「家族と迎える『平穏死』」石飛幸三著 (2014), 廣済堂出版 [高齢者] その他、授業で適宜紹介する。
事前・事後学修	事前学修：第1～14回は授業計画に示した各回の内容について事前に自己学修し、討議用資料を作成して授業に参加する。第15回は事例を用いた病態アセスメントのプレゼンテーションの準備を行う (各回120分程度)。 事後学修：毎回の授業内容のサマリーを作成する (各回60分程度)。 最終課題レポート：事例の病態学的根拠に基づいたアセスメントの作成
オフィスアワー	時間・連絡方法等については初回授業時に提示します。 豊島：1209 研究室 yukiko-t@seirei.ac.jp (看護学研究科慢性看護学領域)

科目名	臨床薬理学			
科目責任者	井上 菜穂美			
単位数他	2 単位（30 時間） 修士論文コース 選択 ・高度実践看護コース 必修 秋			
科目の位置付	(2) 高度な専門知識・能力を習得し、探求心と論理的思考力を身に付け、問題解決を図ることができる。			
科目概要	緊急応急処置、症状調整、慢性疾患管理を必要とする対象者におこる薬物の薬理学的変化の機序を学び、薬物使用の判断及び投与後の患者モニタリングと安全管理について理解する。 また、これらを基盤として、患者の生活調整・服薬管理に関わる看護アセスメントとそれらの能力の向上のための看護支援について検討する。			
到達目標	1. 臨床での使用頻度の高い薬物を取り上げ、薬物の分子構造、薬効、適応、容量、用法、身体内での薬物動態について理解する。 2. 臨床で使用する頻度の高い薬物を投与した後の患者モニタリングと薬物の安全管理について理解する。 3. 1・2に基づいて、患者の生活調整・服薬管理状況に関わる看護アセスメントについて学ぶ。 4. 3に基づき、患者の生活調整・服薬管理の能力の向上を図るための看護支援を検討する。			
授業計画	<授業内容・テーマ等>		<担当教員名>	
	第 1 回	: 薬物動態	松島 秀樹	
	第 2 回	: 感染制御と抗生物質	松島 秀樹	
	第 3 回	: 医薬品医療機器等法に基づく医薬品の取り扱い	山内 拓	
	第 4-9 回	: 薬理作用と適応および患者モニタリング		
		① 循環器疾患治療薬	進藤 愛子	
		② 呼吸器疾患治療薬	池谷真佑子	
		③ 糖尿病治療薬	戸塚 淳子	
		④ こころの疾患に用いる治療薬	奥村 知香	
		⑤ 免疫抑制薬・副腎皮質ホルモン薬	戸塚 淳子	
		⑥ 疼痛治療薬（NSAIDs、オピオイド鎮痛薬等）	伊藤 智子	
	第 10 回	: 抗悪性腫瘍薬の管理と暴露について	池谷真佑子	
	第 11 回	: 小児・高齢者に用いるときの薬理作用	進藤 愛子	
	第 12 回	: 妊娠期～授乳期に用いるときの薬理作用	伊藤 智子	
	第 13 回	: 臨床試験（治験を含む）と看護師の役割	特別講師	高山 京子
第 14-15 回	: アセスメントに基づく看護支援			
	① 生活調整・服薬管理状況についてのアセスメントとそれらの能力の向上を図るための看護支援	井上菜穂美		
	② 事例を用いて検討	井上菜穂美		

学修方法	講義、プレゼンテーション、討議により授業を進める。
評価方法	・プレゼンテーション及び討議への参加度(60%) ・課題レポート(40%)
課題に対するフィードバック	個人または履修者全体に対し、次回授業での意見・助言や、課題・提出物へのコメントの記載により、課題とその成果に対するフィードバックを行う。
指定図書	『疾患からみた臨床薬理学 第3版』大橋京一，渡邊裕司，藤村昭夫編（2012），じほう 『臨床薬理学 第4版』日本臨床薬理学会編（2017），医学書院
参考図書	『みてわかる薬学 図解 薬理学』鍋島 俊隆，井上和秀編（2015），南山堂
事前・事後学修	・授業前に、授業計画に示した各回の内容について自己学修し、プレゼンテーション・討議用の資料を作成する。 ・授業後に、授業内容のサマリーを作成する。
オフィスアワー	科目責任者:井上菜穂美(看護学研究科)1208 研究室 メールアドレス:nahomi-i@seirei.ac.jp 時間・連絡方法については初回授業時に提示します。ご用の方はメールで連絡してください。